

エコファームでめざす和牛日本一！

— (有) 哲多和牛牧場 —

社団法人 岡山県畜産協会

岡山県新見市哲多町にある(有)哲多和牛牧場は、このほど大規模な太陽光発電システムを導入して、環境にやさしいエコファームとしての稼働を開始したのでその概要を紹介します。

哲多和牛牧場は和牛の繁殖牛を約300頭、肥育牛を約1,200頭飼育しており、肉質のよい「千屋牛」の生産農場です。

この農場では、国・県・市からの補助(草地林地一体的総合整備事業)を受け、事業費54,726千円で、大規模な太陽光発電システムを牛舎の屋根2棟に設置しました。

これにより、期待される効果としては、経済的には牧場で使用する電力送風ファン、自動給餌機等に必要な電力がほぼ供給でき、一方で余剰する電力は販売することにより、電気代がコストダウン、その削減効果は年間で約4,000千円と試算されています。

太陽光発電は、CO₂の排出量削減のための新エネルギーのひとつとして期待されており、環境配慮に対する牧場のイメージアップにつながるものと期待されています。

また、屋根にパネルを設置することで太陽の熱を吸収し、夏期の畜舎内温度の上昇を抑制する効果も期待されています。

このパネルの大きさは、1基が5.1m×14.9mで1棟には3基、これを2棟の牛舎屋根に設置し、最大発電量は1時間で60kwです。

太陽光による発電であるため、夜間は発電がないこと、曇りや真夏の灼熱でも少ないなど、自然条件で変動があります。

この牧場の太陽光発電は畜産部門では全国的にもめずらしい事例ですが、岡山県内の他の業種では、久米工業団地内にある院庄林業の工場の屋根に設置した事例があり、

これが中国四国最大のものといわれ、約700KW/時間の発電量です。

全国的に有名な事例としては、ネットでの検索によるとシャープの亀山工場(三重県)で5,120KW/時間として紹介されています。

米国では経済の立て直し策として「グリーンニューディール政策」が推進されていて、太陽光発電などの自然エネルギーに高い関心が持たれ、日本でも余剰電力の買い取り単価が検討される中で、今回の哲多和牛牧場の事例は先見性のある試みだと思われます。しかし、現段階では初期投資にかなり高いコストがかかること、夜間や天候次第で発電できないことが課題といえます。

この太陽光発電について小坂延也場長は「和牛日本一をめざす牧場にとって、クリーンなエコファームとしてイメージアップへつながる」と期待を寄せられています。



牛舎の屋根に設置された太陽光発電用パネル